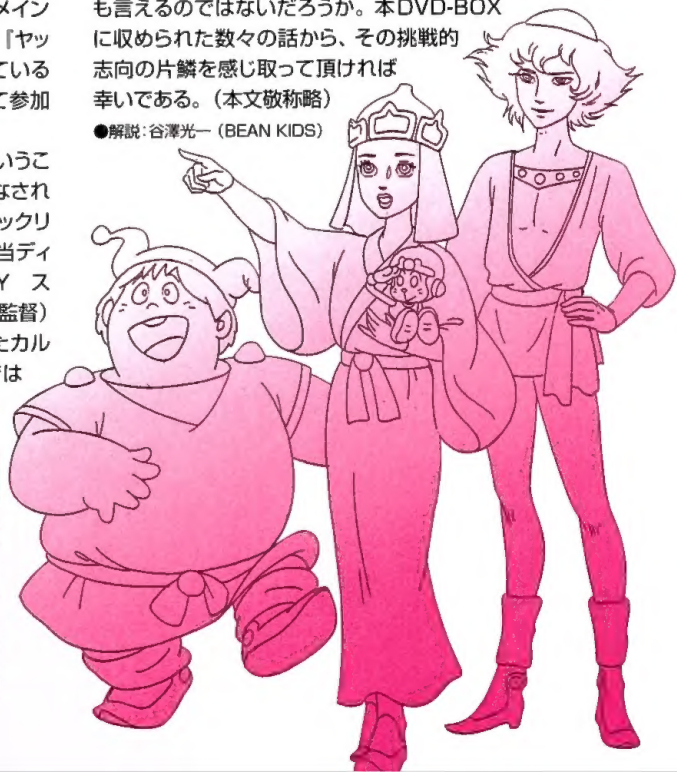
ITADAKI-MAN
SPECIAL BOOK

天から降ったか地から湧いたか
三千世界を乱す奴、天に代わって打ち砕く、
イタダキマン参上！
ここで会ったがこんにちは！

タイムボカンシリーズ第７弾『イタダキマン』は、シリアスムード満点で大河ドラマ的だった前作『逆転イッパツマン』から一転、『タイムボカン』や『ヤッターマン』等に代表されるコミカル色が強い１話完結式の作りを重視し、話の内容も物探しを基本とするなど原点回帰に沿った作品として制作された。古くから世界中で多くの人々に知られており、冒険ものの定番と言われている『西遊記』をベースとしているところからも、わかりやすく人々が親しみやすい作品にしようとしていたのが分かる。メカニック面でも前２作の巨大ロボット路線から動物&昆虫をモチーフにした物へと先祖返りを遂げているほか、『ヤッターマン』で人気だったゾロメカも本作で復活した点に注目。メインライターは竜の子アニメと縁が深く、ボカンシリーズも『ヤッターマン』～『オタスケマン』で各話脚本を執筆している酒井あきよしが３作ぶりに復帰し、シリーズ構成として参加している。

その一方で、長きに渡るシリーズの中の最新作ということで、マンネリから脱却しようと様々な新しい試みがなされている。当時人気を博していた面白系投稿雑誌“ビックリハウス”からのネタの提供や、前作に引き続いて担当ディレクターを務めた植田秀仁（後に『OKAWARI BOY　スターザンS』『昭和アホ草紙　あかぬけ一番!』などを監督）の若い感性が活かされ、80年代前半の空気を捉えたカルくてネアカなギャグテイストを確立。さらに善玉側ではなく悪玉側にヒーロー（の変身前）が同行、イタダキマンの直接の敵は妖怪で三悪がそのサポートを遂行、イタダキマン自身が巨大化・パワーアップして敵と戦うなど、キャラクター面で多くの新機軸が目立つ。主演の田中真弓が主題歌を歌っている点もボカンシリーズとしては新鮮だった。

このように、心機一転、ボカンシリーズの新たな船出であった『イタダキマン』は時間帯が本作より土曜午後７時30分に変更されたこと等が影響したのか、全20話で終了。8年間続いた栄光のタイムボカンシリーズは本作でひとまずの幕引きを迎えることとなり、TVシリーズとしての復活は結局17年後の『怪盗きらめきマン』まで待つこととなってしまう。この決定的な事実と共に、温故知新を謳いながらあまりにも奇抜な設定とノリを持つ本作は、ボカンシリーズの鬼っ子的存在としてファンから捉えられているのは未だ持って否めないところだ。しかし、それだけに前６作に見られない独特の魅力を有しているとも言える。それに４クール以上のTVシリーズというものは、制作が進んでいく中で作品性が育まれていくものであり、１年近く放映されていれば『イタダキマン』はその特異性を持って80年代のボカンシリーズの新スタンダードを育て上げていたかもしれない。あくまで“もしも……”の領域を出ない話だが、ある意味ではそう思わせるだけのチャレンジャブルな作品であったとも言えるのではないだろうか。本DVD-BOXに収められた数々の話から、その挑戦的志向の片鱗を感じ取って頂ければ幸いである。（本文敬称略）

●解説：谷澤光一（BEAN KIDS）

STORY INTRODUCTION

オシャカ様の霊を宿した名門オシャカ学園のオチャカ校長は、三蔵法師の子孫に当たる３人の生徒たちに、世界中にばらまかれたオシャカパズルを集めるという使命を与える。その話を聞いたヤンヤンたちは、自分たちこそ真の三蔵一行の子孫であると憤慨し、法子たちより先にオシャカパズルを揃えようと躍起になる。その道中ではいつも法子たちは妖怪に襲われそうになるが、その時どこからともなく謎のヒーロー“イタダキマン”が登場。三悪のサポートでパワーアップした妖怪変化に対し、二段変身で立ち向かう!

EPISODE GUIDE

■放映データ

1983年4月9日～1983年9月24日
フジテレビ系にて放映　全20話

■MAIN STAFF

製作:吉田健二／原作:タツノコプロ企画室、九里一平／企画:岡正（フジテレビ）／総監督:笹川ひろし／担当ディレクター:植田秀仁／シリーズ構成:酒井あきよし／キャラクターデザイン:天野嘉孝／キャラクタースタイリング:水村十司／メカニックデザイン:大河原邦男／主題歌『いただきマンボ』歌:田中真弓、作詞:唐　珍化、作曲:古田喜昭、編曲:クニ河内　『どびびぃ～んセレナーデ』歌:きたむらけん、作詞・作曲:山本正之、編曲:クニ河内／音楽:神保正明、山本正之／美術スタイリング:岡田和夫／オープニングアニメーション:田中平八郎／メインタイトル:杉　爽／プロデューサー:井上　明（竜の子プロ）、大野　実（読売広告社）／録音制作:ザックプロモーション／録音ディレクター:水本　完、清水勝則／録音:兼子芳博（赤坂スタジオ）／協力:ビックリハウス／制作担当:中村正雄（アニメフレンド）、大野実（読売広告社）／制作:タツノコプロ、フジテレビ

■MAIN CAST

孫田空作（イタダキマン）:田中真弓／三蔵法子:及川ひとみ／サーゴ・浄:島田　敏／猪尾ハツ男:西村智博／ヤンヤン:小原乃梨子／ダサイネン:八奈見乗児／トンメンタン:たてかべ和也／竜子:坂本千夏／オチャカ校長:及川ヒロオ／カンノ先生:梨羽雪子／ナレーター:富山　敬

※名前の表記は放映当時のものに準じております。

第1話　オシャカ学園危機イッパツ!!

古くから存在する倉庫の取り壊しを始めて以来、行方不明者が出るなど妙な事件が次々と起こっているオシャカ学園。その上、「この学園は呪われておる。倉庫を壊す者にはたたりがある」と語る謎の山伏まで現れる始末。この山伏、実は何百年も生き長らえているネズミー族の主だった。金歯として使っていたオシャカパズルの欠片によって魔力を得て妖怪と化していたこのネズミは、自分たち一族の住みかである倉庫を守るために怪事件を起こしていたのだった。

第2話　ドッキリ水着コンテスト!

オシャカン鳥のお告げにより、オシャカパズルを探しにパワイ島に向かうこととなったたてまえトリオと三悪たち。ちょうどそこでは恒例の水着コンテストが開催間近で、法子やヤンヤンも出場することになった。ところがこのコンテスト、過去の優勝者は皆、謎の失踪を遂げていた。実は水着コンテストの主催者の正体は強力な妖力を持つ妖怪・グレートアンコウで、彼は優勝した美女たちを人魚に変え、自分のためのハーレムを海中に作っていたのだった!

第3話　エッ! ヤンヤンに赤ちゃんが?

法子たちの行方を先回りしてエデンの池に辿り着いた三悪たちは、そこでたくさんの実をつけた大きなりんごの木を見つけるや否や、腹一杯にその実を食べまくる。その後、やけに喉が渇いてきたヤンヤンたちは池の水をたらふく飲むと、ぐっすりと眠ってしまう。そして目が覚めた時、三悪のお腹が妊婦のように大きくなっていた!　心配して医者に診てもらったところ、なんと全員妊娠しているという。これらはすべて妖怪・ミスターエデンの仕業というのだが……。

第4話　笑って笑ってネアカになれ

オシャカパズルを求めてスイスイシティを訪れたたてまえトリオと三悪たち。その街の住人は市長が定めた掟により、どんなに辛いことがあっても一年中大笑いしていないといけなく、おかげで街中ネアカな人々で溢れかえっていた。しかも、この掟を破った者は、みんな行方不明にされてしまっていた。市長を陰で操っている街一番の金持ちで実はモグラ妖怪のルート・ブラック氏は大変なネクラであるが故、その逆の陽気さを常に求めているというのだ。

第5話　こんこん・らぶストーリー

世界的に有名な宇宙科学者やスペースパイロットが次々と謎の失踪を遂げていた。ペンチルバニアへ向かった法子たちは、美女・コーンに出会い、彼女がその事件の犯人だと知る。彼女の正体は白銀の毛を持つ雌狐であり、かつて森で助けられた人間の男・ロバートに恋をしていた。だが、宇宙飛行士であるロバートは遠い宇宙基地へと飛び立っていた。パズルの力で人間の姿をしていられる間に彼に会うため、コーンはロケットを建造して追いかけようとしていた。

第6話　そんなことアリ?!　大作戦

オシャカン鳥のお告げを盗み聞きした三悪は、エゲレス国・霧の都ドンドンへ。現地に着いた彼らは、まず空腹を満たすため「アーリー商会」というサラ金業者にお金を借りに来た。ところがこの店主のアーリー氏は何かと理由を付けてお金を貸してくれない。このアーリー氏、貸し倒れの多さにより人間不審に陥ってるようだが、理由はそれだけでない様子。実は彼はシロアリの妖怪で、木造住宅が減り、多くの仲間が駆除されたことに怒りを抱いていたのだ。

第7話　それを食ったらおしまいよ!

「夢見るギター」というキーワードを頼りにメキシコシティへ出発した法子たち。そこでは多くの女性が婚約者や旦那を忘れてダンスに夢中になるという社会現象が起きていた。その中心的存在であるダンス教室の主宰・クヴァーナは、怪しげなギターを持っていた。彼女の正体は夢を食べると言われるバクの妖怪だった。過去に100回結婚するもイビキと寝相の悪さからすべて離婚された彼女は結婚を夢見る女性たちを憎んでおり、男女の間を引き裂いていたのだった。

第8話　恋ピューター花嫁作戦

ニューラークシティに向かった三蔵一行は、大実業家にして大変な資産家である青年・キャットルが自分の花嫁を選ぶためのパーティを開催することを知り、法子とヤンヤンたちも出席することに。根っからのコンピュータ信奉者であるキャットルは、自分の花嫁もコンピュータに選出させた結果、なんとヤンヤンが選ばれてしまう。実はこのキャットル、パズルで妖力を得た雄猫であり、彼にはかつて心から愛し合ったミヤンという雌猫の彼女がいたのだった……。

第9話　見せてはダメよ! その秘密

映画の都・ホリウッドに旅だったヤンヤンたちは、オシャカパズルの手掛かりをつかむためスタジオ内に潜入。ところが思いも寄らないことに、そこで空作が撮影中の映画『スターボーズ3』の役者として抜擢! しかもその役所は、世界のアイドル・メリーちゃんの相手役。一方、メリーに空作を取られてしまい面白くないヤンヤンは、彼女のスキャンダルを探っている芸能レポーター・ナシブックの手助けをすることに。しかし、その陰にはまた妖怪の匂いが!

第10話　あげられない! これだけは

サバラ砂漠にやってきた法子たちは、そこで倒れている少年・アハトを助けることに。彼は母を訪ねて旅をしている途中で道に迷い、日射病になってしまったのだ。彼の話によると、かつては母と平和に暮らしていたが、突如、部族間で大きな戦争が起こったことを皮切りに、砂嵐&敵の襲撃によって母や仲間たちと別れ離れになり、ひとりぼっちになってしまったというのだ。法子たちもアハトの母探しに協力する約束をした矢先、盗賊団「赤い蠍」が現れた!

第11話　かんぱい! ぼっちゃん先生

ロッキー山脈へやって来た法子たちを追うダサイネンとトンメンタンは、法子一行から食料を奪おうとしてオモンキーを壊してしまう。困っている法子たちに声をかけてオモンキーを直してくれたのは、ぼっちゃんという熱血青年教師だった。彼は途中で一緒になった三悪とともに分教場へと向かう。一方、法子たちは麓の町でタヌキのバケモノが付近を荒らし回っているという話を聞く。同じ頃、空作は分教場がタヌキのバケモノの根城であることに気がついた。

第12話　奇跡ウルサイユのバラ物語

法子たちはオヘランスのウルサイユにやって来た。だがここは法律により男性は虐げられており、浄とハツ男は捕らえられてしまう。三悪もヤンヤン以外は投獄されていた。その夜、城での舞踏会に参加した法子だったが、そこで街を治めるオスカーは男性撲滅を叫ぶ。一方、浄とハツ男はオスカーの考えに反対するサムとともに脱獄し反旗を翻す。女性たちも男女平等を唱える法子に賛同し、一転窮地に追い込まれたオスカーは、カマキリ妖怪の正体を現した!

第13話　学園ガジガジパニック!

ある日三悪は新任の校医・原と知り合い、彼の助手としてオシャカ学園に潜入することに成功した。原はオチャカ校長に、気分を落ち着かせるという薬・ノースカットを全校生徒に飲ませることを勧める。だがその薬を服用した生徒たちは、みな凶暴化しネズミ人間に変身してしまった。原を不審に思った空作は前任の校医・荒木の元へと向かい、原が以前倒したネズミ妖怪の弟だと知る。その頃学園ではマスコミや父兄が押し掛け、さらに大きな騒ぎになっていた。

第14話　一休山のイタダキクイズ!

チベッタ国へとやって来た法子たち。この国の一休山に住む和尚は大のクイズ好きで、クイズ大会を開催するという。その優勝賞品がオシャカパズルと知り、法子たちも参加することにした。だが和尚はヤンヤンたちとのクイズ合戦で勝った方を参加させると言うのだった。そして両チームともあと1ポイントで優勝という時、空作によって和尚の正体が一休山の老木であることが暴かれた。人間に怨みを抱く老木は、その魔力で法子たちを樹木に変えようとする。

第15話 浜辺のキッスにご用心!

休みを利用してショウナンダ海岸へ遊びに行くことにした法子たち。出発直前にその海岸にパズルがあるとの校長のお告げが。ところがこの海岸では、最近美しい女性ばかりが行方不明になる事件が多発していた。海水浴を楽しむ法子たちだったが、そんな中カンノ先生は美形の青年にナンパされる。実はその青年こそ行方不明事件の犯人であるヤドカリ妖怪が変身した姿だった。彼はカンノ先生を貝にして自分にピッタリの美しい住居にしようと考えていたのだ。

第18話 きれいな町には罠がある!

オチャカ校長のお告げを受け、クリーンランドのルールシティに旅立った法子たち。だが異常に礼儀にうるさいこの町では、紙くずを捨てるにも神経を使わなければならず、サム少年はこの理不尽な状況を打破しようと考えていた。彼と知り合った法子たちは、修道院長であるムーオを倒す協力をすることにする。その頃、三悪は修道女たちに捕らえられていたが、ムンムンはムーオの正体が妖怪であることに気がついた。そこでパズルを手に入れるため一計を案る。

第16話 竜子ちゃんも女でありんす

恋に憧れている竜子は、万年浪人の三悪に仕えることに疑問を抱いていた。そんな時毎度パズル探しに出た法子たちを追い、三悪と竜子もベニスンへ。到着早々、竜子は美形の青年ワニータに声をかけられる。彼に一目惚れした竜子は、ヤンヤンに一味から抜けたいと願い出るが、その理由が恋愛と知りヤンヤンは面白くない。偶然ワニータを見かけたヤンヤンは、彼に近づきデートの約束を取り付ける。だがワニータはへんてこな女性を狙う、ワニ妖怪だったのだ!

第19話 ブッシュマンVSターサン

アホリカのジャングルで三悪は、ブッシュマン旅館のニカと一緒にいた法子一行と出会う。そこへ営利主義のホテルを経営するターサンが現れ、三悪はターサンのホテルへ、法子たちはブッシュマン旅館へ。だがニカとターサンは幼なじみで、ある時ターサンは豹変して性悪になったのだという。一方ホテルで三悪は、ターサンから手厚くもてなしを受ける。実は性悪のターサンは七面鳥妖怪の変身した姿で、わざとニカとターサンをいがみ合わせていたのだ。

第17話 幻の天ドン山を越えて

木綿ロードの天ドン山に、オシャカパズルに関係ある宝物が隠されているという校長の言葉に従い、法子たちはいつものように出発。だが法子はパズルを求めての危険な旅に疲れていた。天ドン山の麓の町で法子たちは、ここに法子の先祖の三蔵法太郎が立ち寄って魔物を退治したという伝説を知る。その夜宝の地図をまんまと奪ったヤンヤンたちは、地図に記されていた天ドン山の妖怪の封印を破ってしまう。法子は自分たちの力で甦った妖怪を退治をしようとする。

第20話 イタダキマンよどこへ行く

トンタッキーに住む少年ジャッキーが飼っているブタのブータンは、ある日黄金の板きれによって馬よりも早く走れるようになった。草競馬に出場したブータンは大注目株に。しかし悪い馬主と結託した三悪によってブータンは盗まれてしまう。ブータンを使って競馬で大もうけした彼らだったが、三悪はブータンを独占しようと考える。その頃ブータンを連れ出した空作は、オチャカ校長に三悪ではなく法子たちと行動したいと願い出ていた。空作の正体は……?

COLUMN

バリエーション豊富なアイキャッチに注目!

『イタダキマン』の本編以外のお楽しみとして、ほぼ毎回変わるアイキャッチが存在する。ダジャレをこまめに入れたショートコントっぽい作りのこれらアイキャッチ群は、本編とは関係無いながらも、ほのぼのとしていい味を出している。ボカンシリーズではコクピットメカに継ぐ新規の小ネタ・ギャグだっただけに、本作のみで潰えてしまったのは残念。

←第2話Bパート のアイキャッチより。

↓板を抱くから「イタダキ」というダジャレが元となったアイキャッチ。第1話より使用。

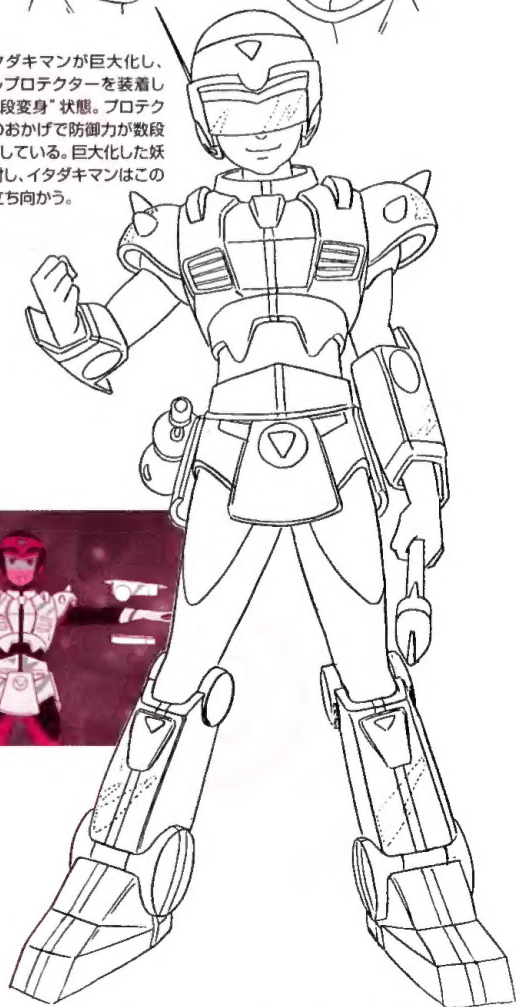
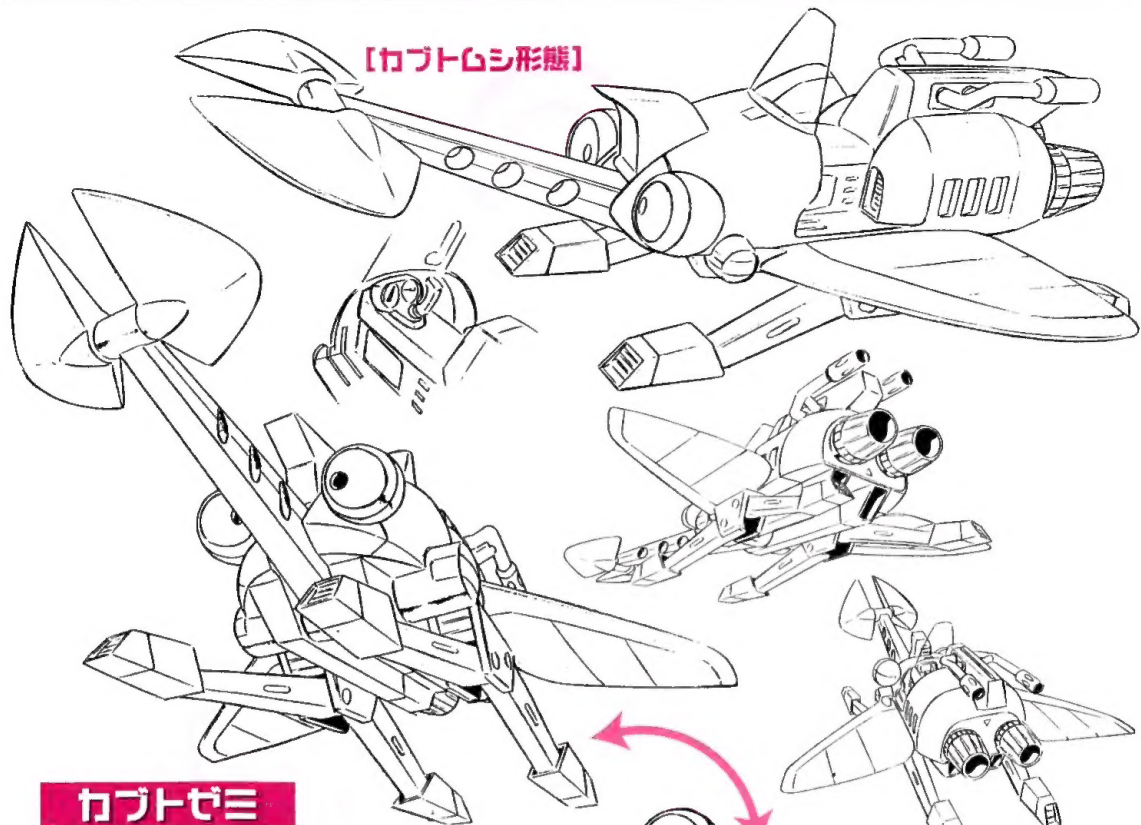
→第3話Bパート のアイキャッチより。

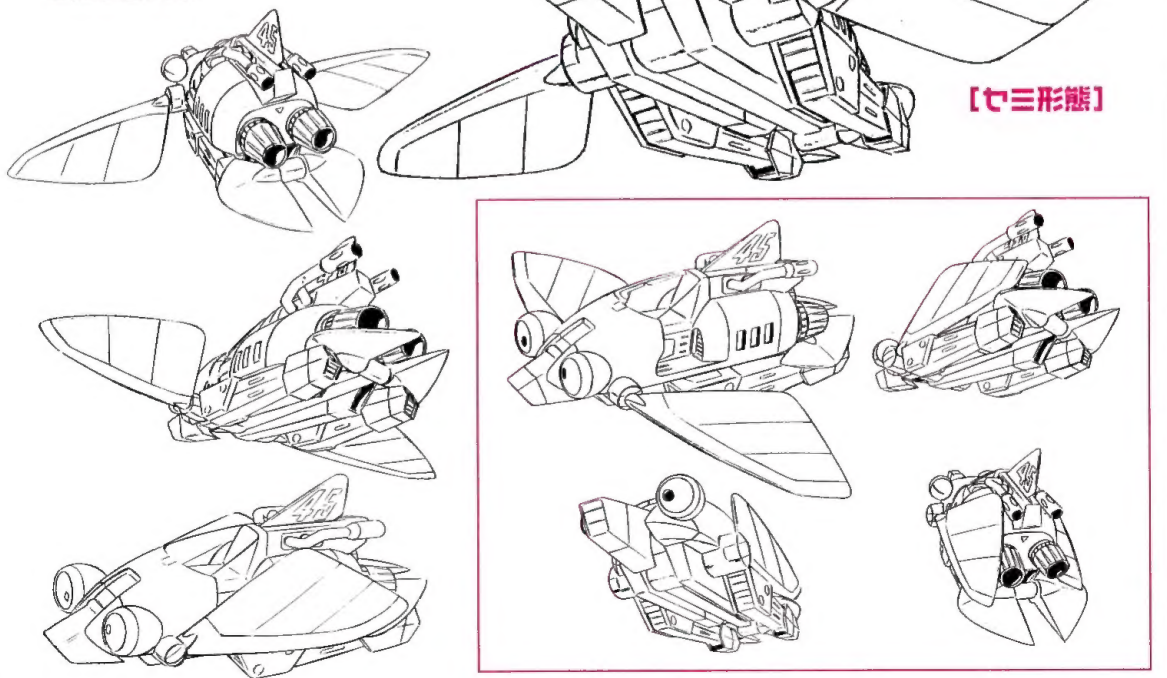
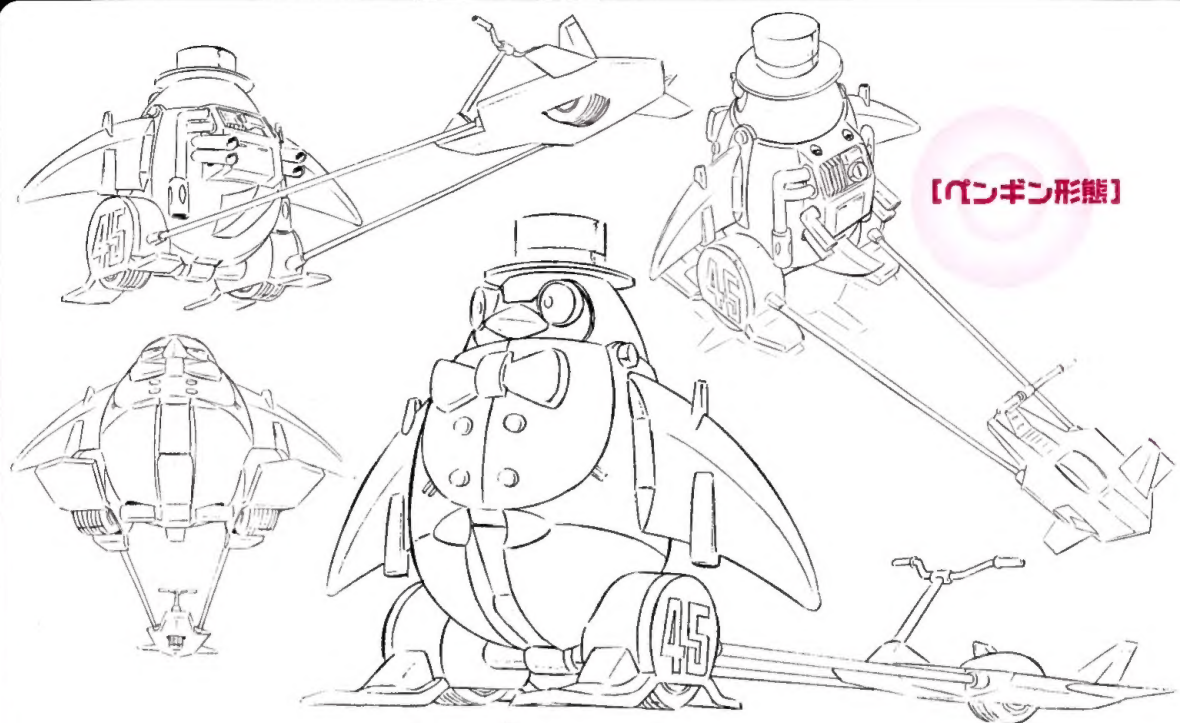
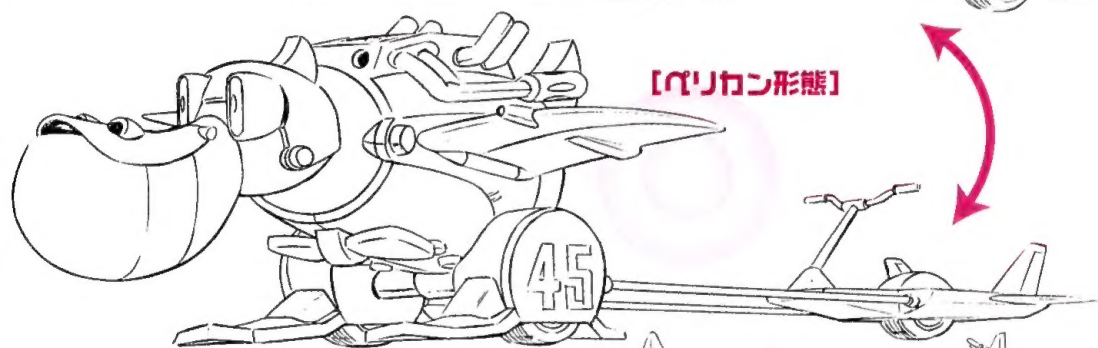
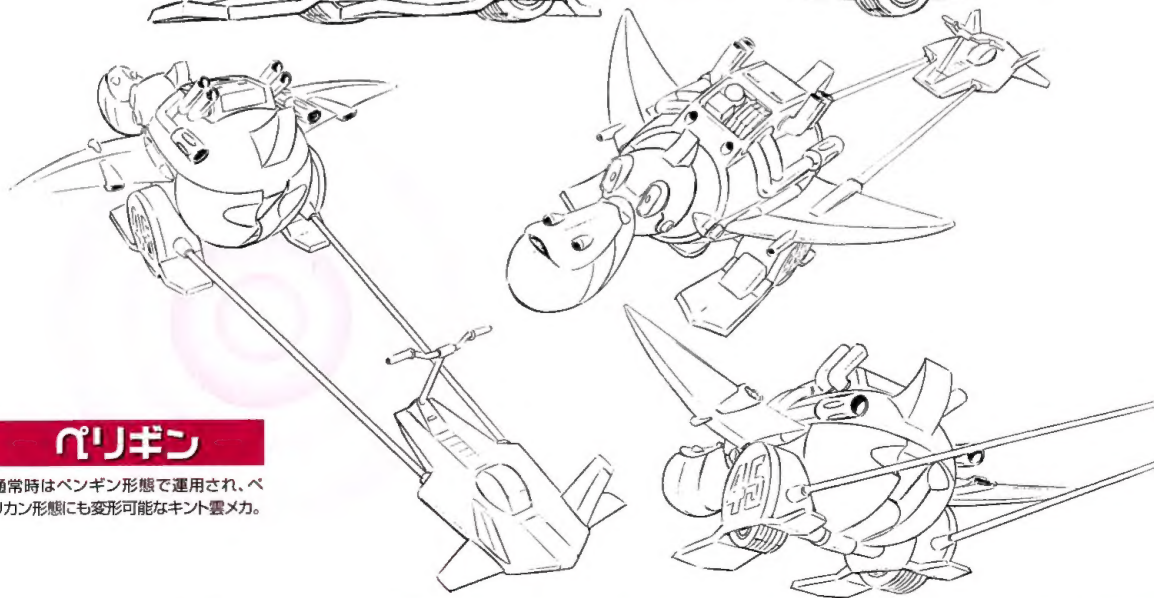
イタダキマン

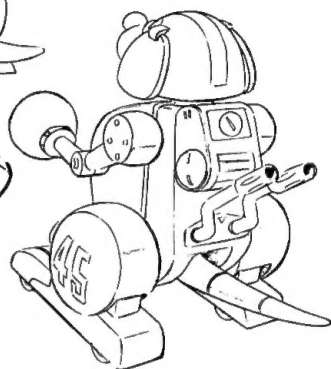
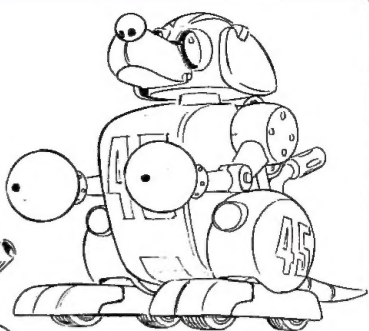
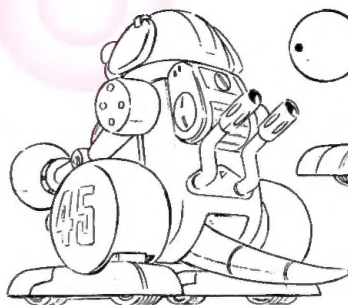
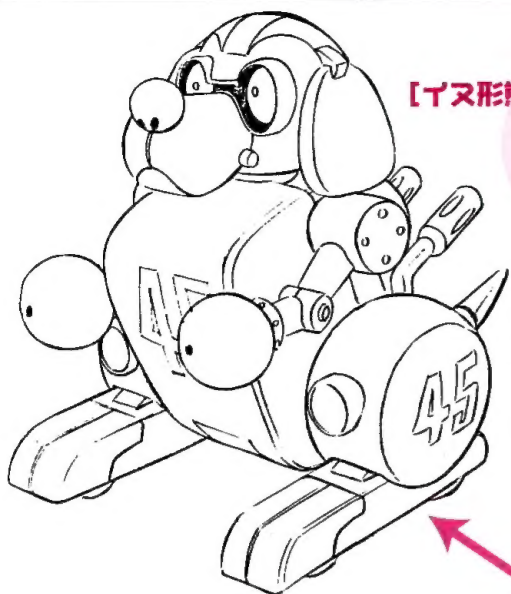
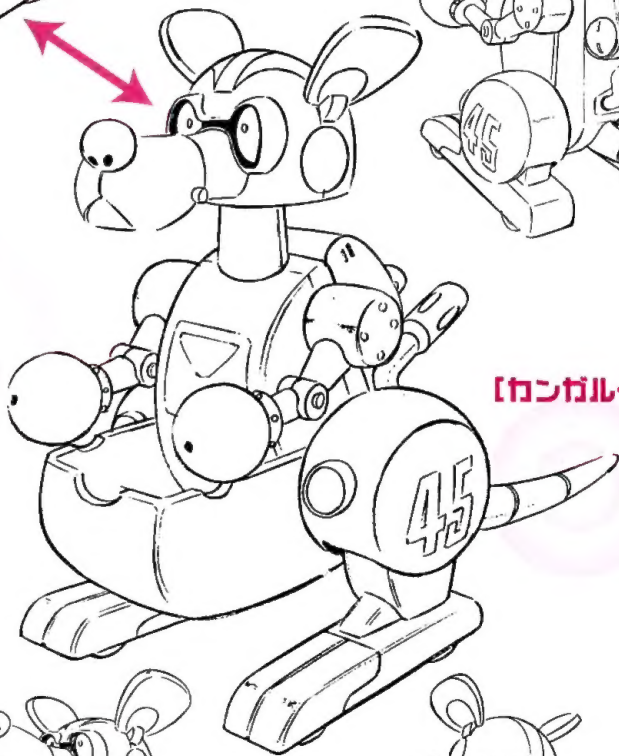
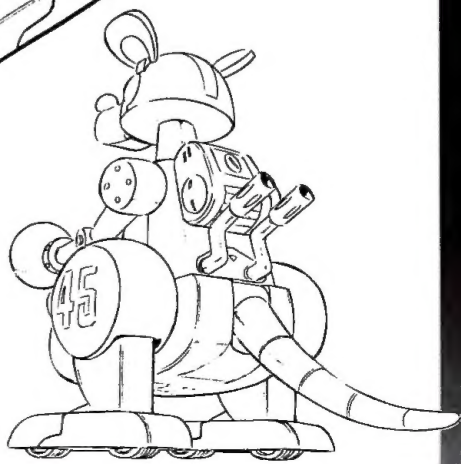
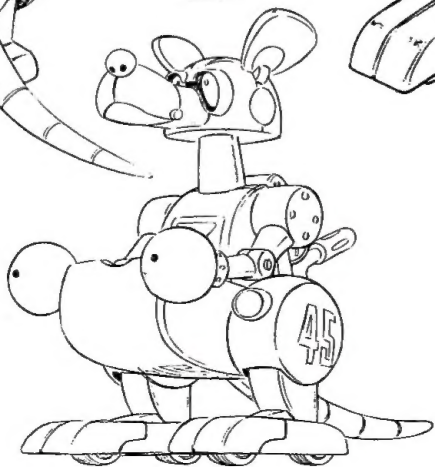
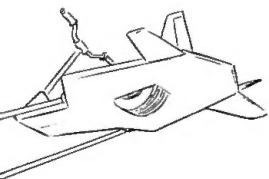
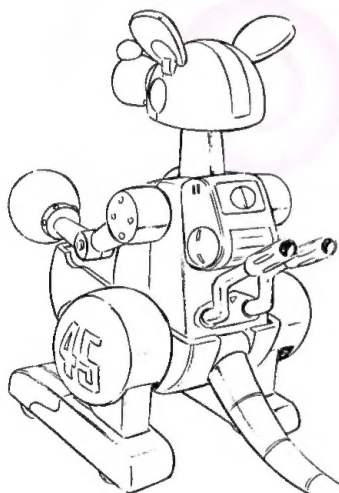
→法子たちが危機に陥ると、どこからともなく現れる正義の味方。悪の妖怪と三悪を叩きのめす。その正体は空作が変身した姿である。

↓イタダキマンが腰に付けているひょうたん。この中からイタダキマンが搭乗する"キント雲メカ"や、多数の小型メカ"ゾロゾロメカ"の素である"ヒョッコリヒョウタン玉"を出すことができる。

→イタダキマンが巨大化し、バトルプロテクターを装着した"二段変身"状態。プロテクターのおかげで防御力が数段アップしている。巨大化した妖怪に対し、イタダキマンはこの姿で立ち向かう。

↓イタダキマンの武器である如意棒は、手のひらサイズの状態で携帯可能。

カブトゼミ

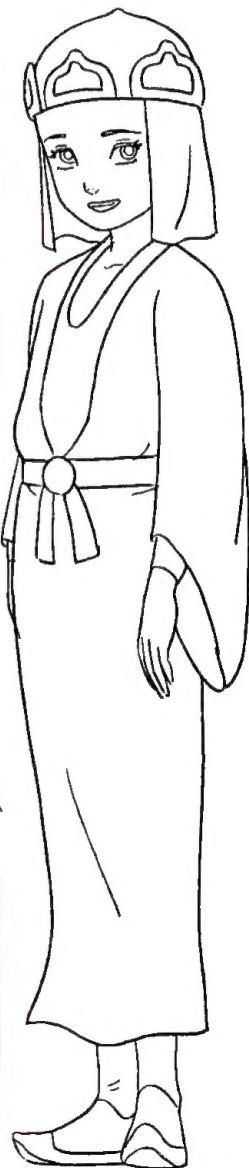
イタダキマンが駆るキント雲メカの内の1体。通常はカブトムシ形態で運用され、イタダキマンを乗せて飛行する。セミ形態に変形すると、超音波攻撃も可能になる。

ペリギン

通常時はペンギン形態で運用され、ペリカン形態にも変形可能なキント雲メカ。

[イヌ形態]
ワンガルー
通常時はイヌ形態で運用され、カンガルー形態にも変形可能なキント雲メカ。
[カンガルー形態]

孫田 空作

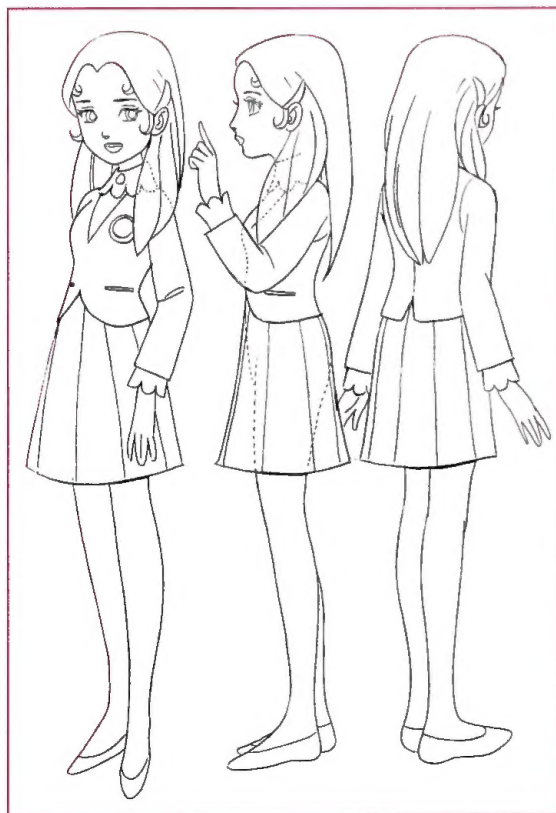
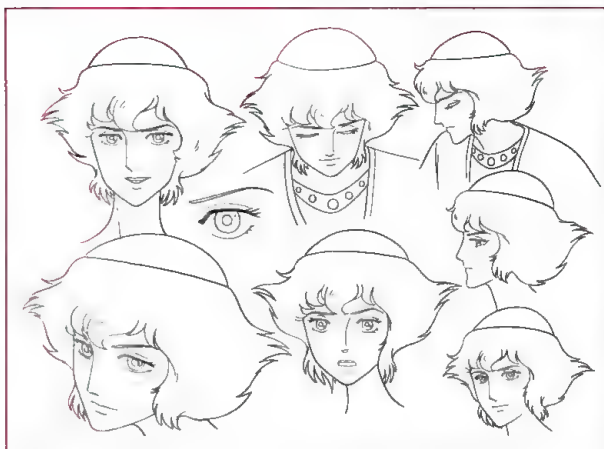
通称･クーちゃん。10歳。母を訪ねる旅の途中、ヤンヤンたちと出会い行動を共にするようになる。実はオチャカ校長に頼まれて三悪を監視しており、陰ながら法子たちを見守っている。孫悟空の子孫である空作は、イタダキマンに変身する能力を持つ。

↓オシャカパズルを探す旅に出かける時に身に付ける三蔵法師風の扮装。

三蔵 法子

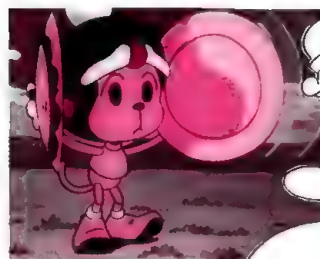
本家の三蔵法師の子孫である17歳の少女。カワイイ容姿とおしとやかにみえる性格から、クラスでも男女問わず人気が高い。しかし、その本性は想像以上に要領を得た現代っ子気質で、怒ると凶暴な一面もあらわにするなど第一印象とのギャップが凄い。真の三蔵一行の子孫である"たてまえトリオ"のリーダーとして、浄くんや八っちゃんと共にオシャカパズルを収集する使命をオチャカ校長から託される。

↑2話でオチャカ校長からプレゼントされた馬型の乗り物。法子の専用機となる。

サーゴ・浄

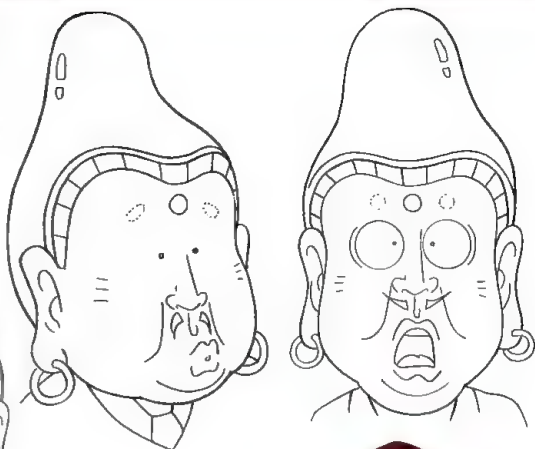
通称・浄くん。17歳。沙悟浄の子孫。真面目だが軽い性格のカッコマン。美人に目がなく、美形な容姿と歯の浮くような口説き文句を駆使して女性にモーションをかける。

→オシャカパズルを探す旅に出かける時に身に付ける沙悟浄風の扮装。

↓オシャカパズルを探す旅に出かける時に身に付ける猪八戒風の扮装。

猪尾 ハツ男

通称・ハっちゃん。猪八戒の真の子孫。17歳。明るくて真面目で力持ちという好感の持てる少年だが、のんきなところが玉にキズ。

オモンキ

オチャカ校長がたてまえトリオに授けたサル型ペットロボット。テレポート能力を持っており、法子たちを世界中のどこへでも瞬間移動させることが可能。また、両手に持つシンバルを鳴らしてイタダキマンを呼ぶこともできる。

オチャカ校長

オシャカ学園の校長で、オシャカ様の遠い親戚にあたる。その割には女性には目が無く、いつもカンノ先生にセクハラを働く煩悩のカタマリのような人である。お茶も大好き。50歳。オシャカ様の霊が宿ると後光が差し、オシャカパズルを探す手掛かりとなる"オシャカ一句"を読み上げる。

カンノ先生

たてまえトリオの担任でオチャカ校長の秘書も務める、観音様の生まれ変わりのような慈悲と美貌に溢れた先生。

↑第10話で披露するカンノ先生のレオタード姿。

オシャカ学園

↑頭脳明晰で成績優秀な者しか入学できない名門中の名門校。法子ちゃん、浄くん、ハっちゃんはこの学園の生徒の中でも優等生中の優等生である。

オシャカパズル

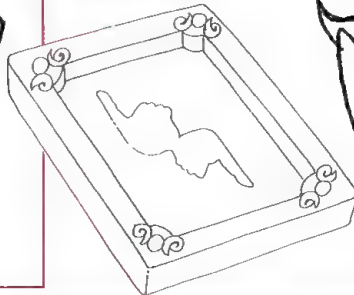
その昔、罪深き人類を救うために偉大な宝を持って地球を訪れたオシャカ様が地上の妖怪たちにその宝物を狙われることを心配して、その姿形をパズル状の銅板に変えたもの。バラバラとなったオシャカパズルは世界中に散らばっており、カケラだけでも魔力を得ることが出来る。

↓裏側

↑表側

←↓オシャカパズルの台座は、オシャカ学園の校長室にある地球儀の中に隠されている。

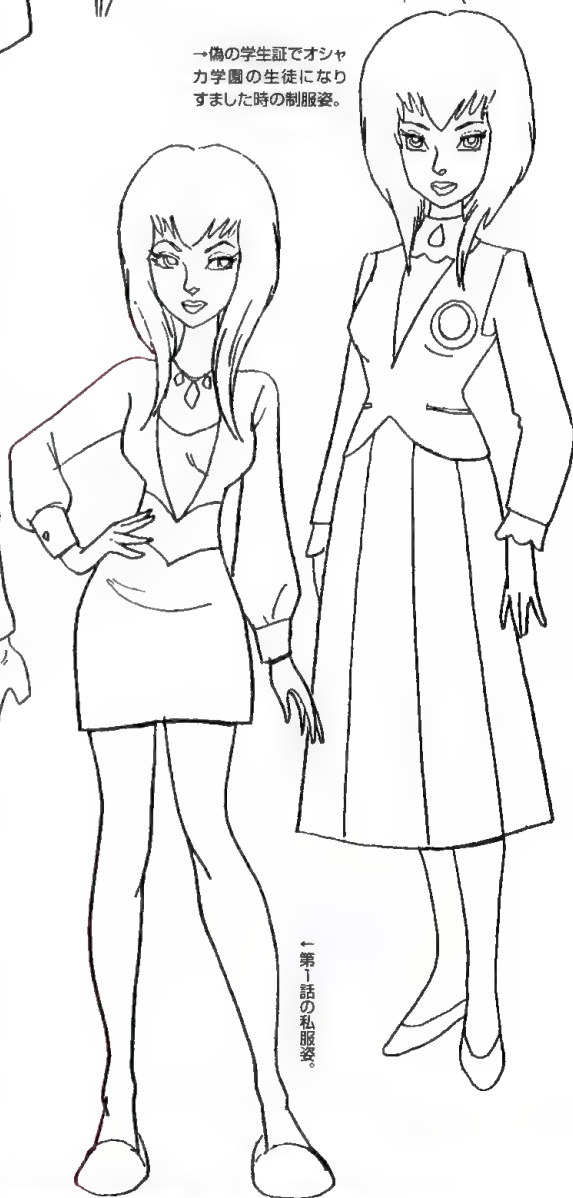
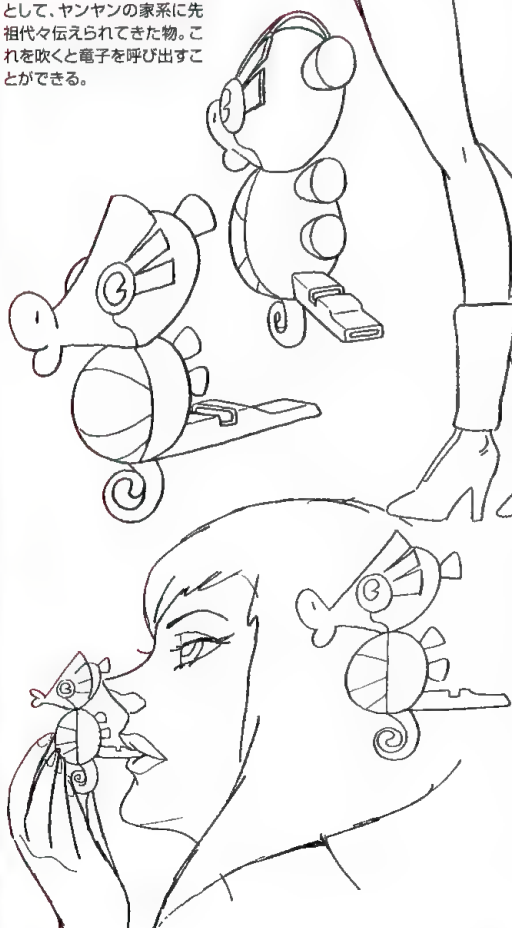
オシャカン鳥

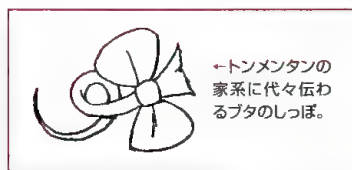
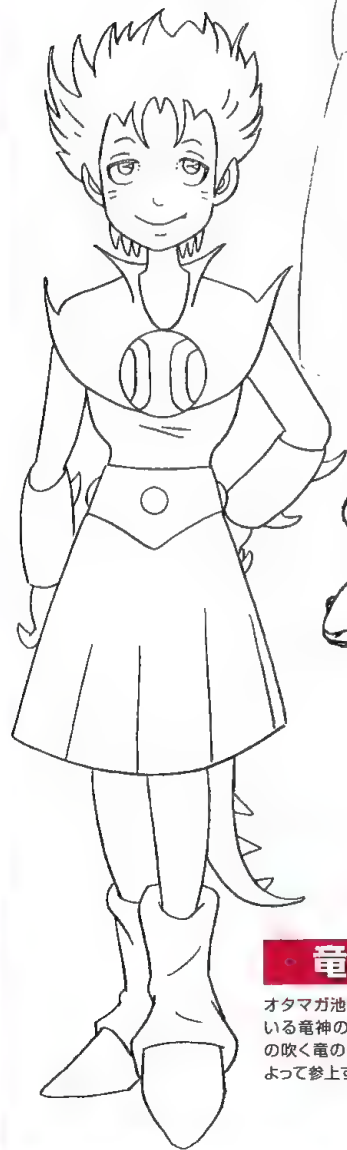
世界中を飛び回り、この世のすべての秘密を知っている鳥。オシャカ様の使いと言われている。オシャカ様の霊が宿ったオチャカ校長の呼びかけに応じて現れ、オシャカパズルの在処を教えてくれる。

ヤンヤン

名門オシャカ学園に入学しようと8年も浪人しているため、オバンになりそうなイケズ女。25歳。年齢は気にしているようで、空作には自分のことを"お姉さん"と呼ばせることにこだわる。自分こそが三蔵法師の子孫だと信じて疑わず、そのプライドから受験勉強そっちのけでダサイネンとトンメンタンをお供に、たてまえトリオより先にオシャカパズルを揃えようと躍起になる。

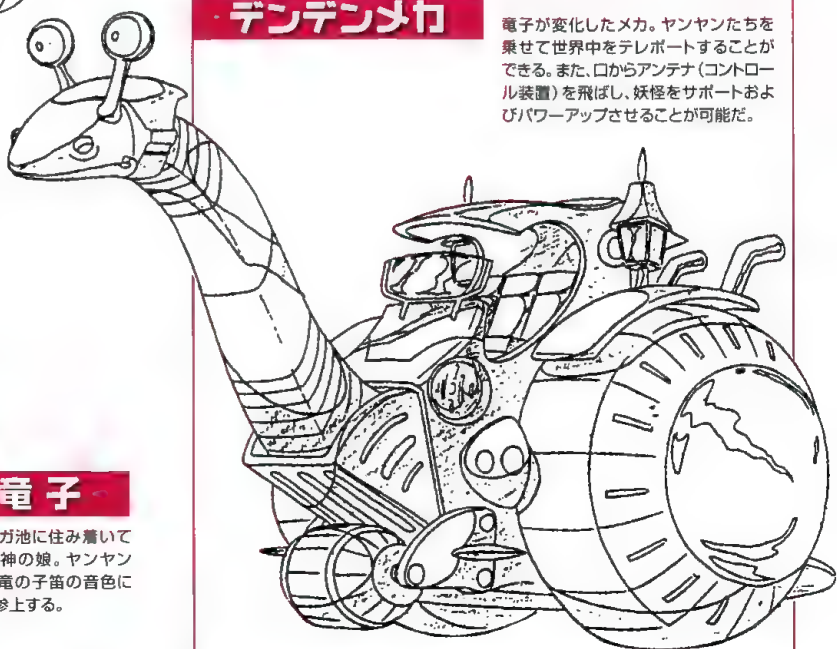
竜の子笛

三蔵法師の子孫である証拠として、ヤンヤンの家系に先祖代々伝えられてきた物。これを吹くと竜子を呼び出すことができる。

→偽の学生証でオシャカ学園の生徒になりすました時の制服姿。

←第1話の私服姿。

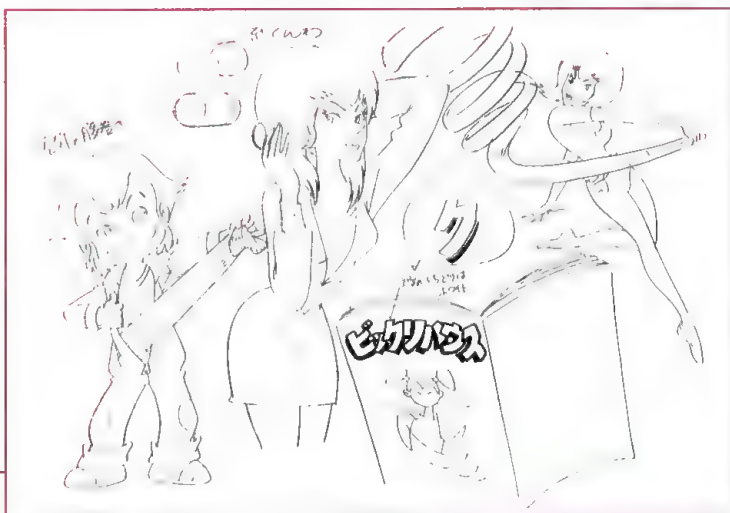
ダサイネン
ヤンヤンの同居人で、同じくオシャカ学園入学を目指して浪人中の26歳。自分のことを沙悟浄の子孫と思い込んでいる。
→ヤンヤンと一緒に学園に潜入した時の制服姿。
←ダサイネンの家系に代々伝わる沙悟浄の頭の皿。
トンメンタン
ヤンヤン、ダサイネンの同居人でオシャカ学園を目指して浪人中の30歳。自分のことを猪八戒の子孫だと思い込んでいる。
←トンメンタンの家系に代々伝わるブタのしっぽ。

デンデンメカ

竜子が変化したメカ。ヤンヤンたちを乗せて世界中をテレポートすることができる。また、口からアンテナ（コントロール装置）を飛ばし、妖怪をサポートおよびパワーアップさせることが可能だ。

竜子

オタマガ池に住み着いている竜神の娘。ヤンヤンの吹く竜の子笛の音色によって参上する。

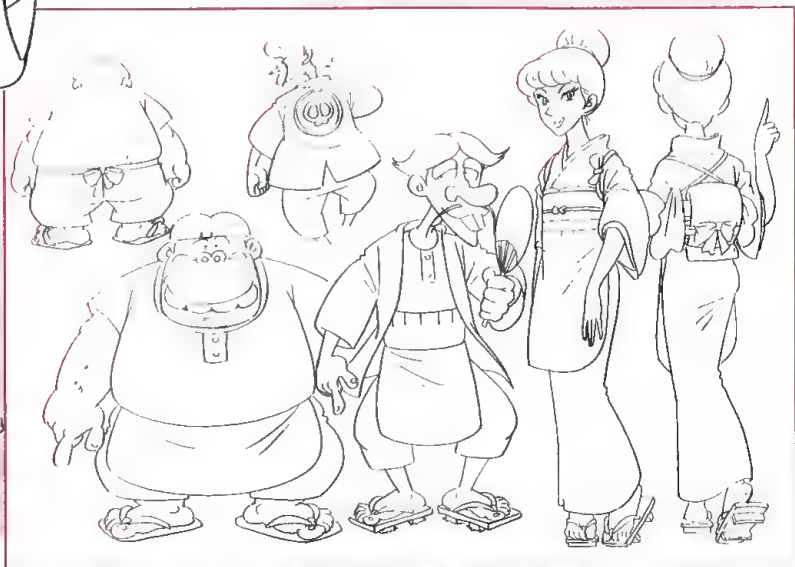
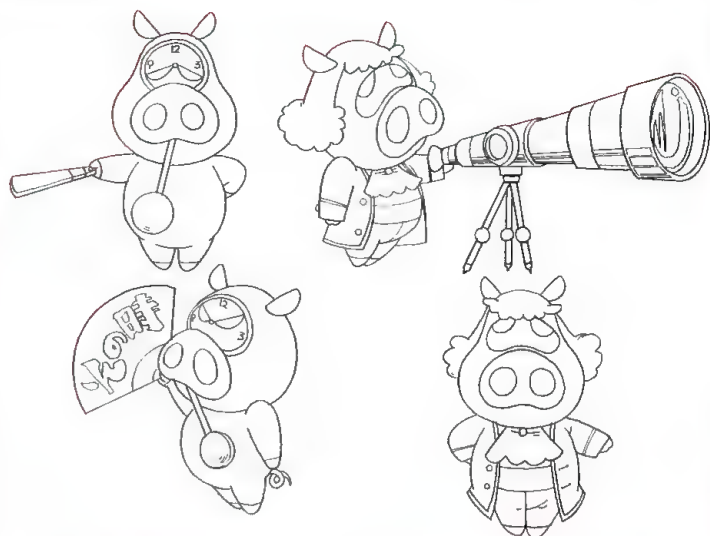
三悪 ゲスト設定 その1

←第1話より下着姿。

↓第10話より腹巻きをリボン代わりに新体操をするヤンヤン。

←第10話よりレオタード姿のヤンヤンと、私服姿のダサイネン&トンメンタン。

↑第13話より看護婦姿のヤンヤン。

←↑第16話より黒装束の盗っ人姿。

↓第14話より焼鳥屋の店員姿。

【時ブタ】ボカンシリーズおなじみのブタは、本作では「その時!」と言い場面に注目させる役割を持つ。各話ごとに様々なバリエーションがある。

コクピットメカ

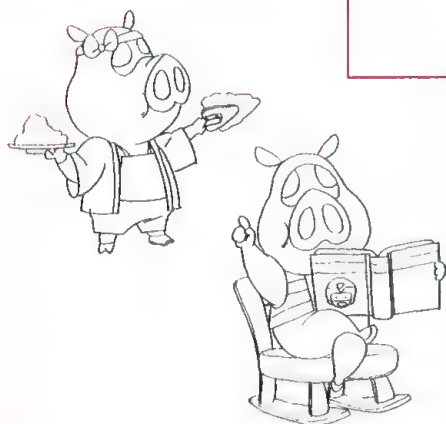
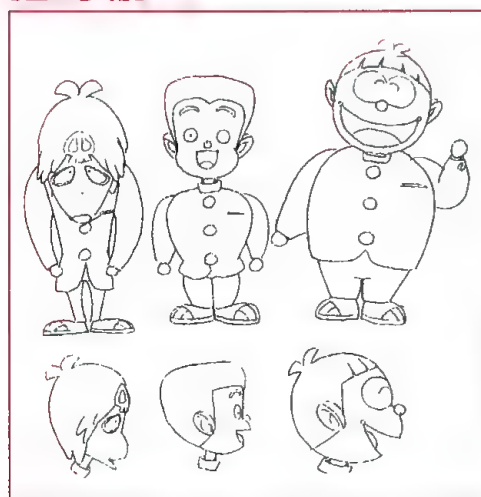
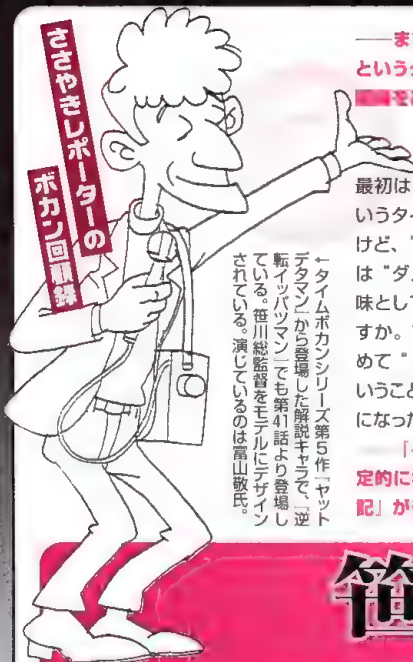
【占いメカ】

【宴会メカ】

←タイムボカンシリーズ第5作『ヤットデタマン』から登場した解説キャラで、『逆転イッパツマン』でも第41話より登場している。笹川総監督をモデルにデザインされている。演じているのは富山敬氏。

笹川ひろし

［総監督］

一度は『西遊記』を題材にしたアニメを作りたいという思いが、『イタダキマン』になったんです。

――まず「イタダキマン」というタイトルに決定した経緯をお願いします。

これがずいぶんもめましてね……。最初は『オシャカマン』というタイトルだったんですけど、“オシャカ”というのは“ダメになる”という意味としても使うじゃないですか。ですから、それはやめて“（人気を）戴こう”ということで『イタダキマン』になったんですよ。

――「イタダキマン」は設定的に学園ドラマや「西遊記」がモチーフとなっていますが、その理由をお聞かせ下さい。

我々もタイムボカンシリーズを６作創ってきて、さすがにやり尽くした感もなきにしもあらずだったんですね（笑）。それで『イッパツマン』の次はどうしようかとあれこれ考えまして、『イッパツマン』はサラリーマンものだったから今度は学園ものにしようという発想が一つありました。それとアニメを創っているからには、一度は『西遊記』を題材にしてみよう、という思いもあったんです。『西遊記』というのは、アニメーションに限らず、題材としてとても魅力的で興味を惹かれるお話なんです。今でも色々と『西遊記』を題材にしたアニメやマンガがありますよね。それで「イタダキマン」では孫悟空をヒーローのモチーフとして頂戴しまして、敵も今までとはちょっと変えて色々な動物の妖怪ということにしてみたわけなんです。……ただ、正直敵側もメカにしてもやり尽くしてしまったところもありまして（苦笑）、毎回アイデアを出すのにかなり苦しんだ記憶があります。でも“学園もの＋西遊記”という設定は、意外に上手くまとまったと思っているんですよ。

――正義側の法子たちが、普段は制服のブレザー姿という辺りも新鮮でした。

三悪も学生で、しかも８年も浪人しているなんていう設定も面白いんですけどね（笑）。オチャカ校長とカンノ先生のやりとりも楽しかったですしね。

――オチャカ校長は、今だとセクハラ描写でNGかもしれないようなことを平気でやってますよね（笑）。

そうそう（笑）。

――それから、法子たちが正義とは言いつつも“建前トリオ”というネガティブな単語を使っていたのも傑作だったと思います。

そう、法子たちはあくまでも“建前”なんですよ。本当は三悪が……という感じで（笑）。

――実際に「イタダキマン」の三悪はこれまで以上に“主役”っぽい扱いになっていました。

それはシリーズを重ねてくるうちに、三悪のパワーがかなり上がってきて、正義側は看板で、事実上の主役は三悪なんじゃないか？　みたいな形にもなってきてましたから、そうした影響もあったんじゃないかと思います。“主役が大事なんだ”とは言いましても、やはり三悪の人気は高かったですし、作る側としても描きやすかったんですね。

――正義側なのに、自分が美人と言われるのを当然と思っていたりする法子というキャラクターは、タイムボカンシリーズとしては、割と斬新といいますか、リアルな女性キャラにも感じるのですが。

そういう意味ではだいぶ大人志向になっていたんでしょうね。『タイムボカン』の淳子ちゃんなんかと比べると、だいぶ違っていますから（笑）。長くやってきてますから、ヒロインのイメージも変わってきますよね。

――タイムボカンシリーズのヒロインというのは、その時代時代の女の子を映していたような面もあるかもしれないですね。

そうかもしれませんね。

――イタダキマンに変身する空作が、普段は三悪と行動をともにしているという構造が、とても意外で面白かったですね。

そうですね。今までとはフォーマットを大きく変えてみよう、という狙いがありましたから。さすがに９年間も続け来ますと、なんとか新しくできないかと色々考えるんですよね。そういうこともあって、この作品のキャラクターの配置はかなり凝っているんですよ。

――その辺の変え方なども含めて、「イタダキマン」というのは、“新しいタイムボカンシリーズ”を模索していたのではないか？　という感じも受けるのですが、実際はいかがだったのでしょうか。

タイムボカンシリーズから離れようと言うことは決してなかったんですが、とにかく変化を付けようという思いは強かったですね。ただ改めて思うと、学園ものという部分は、タイムボカンシリーズから外れるか外れないかのギリギリのところだったですよね。

――タイムボカンシリーズとしてどこまで外した要素を入れられるか？　みたいなところが「イタダキマン」の一つのポイントでもあったわけですね。

そうです。もう一回、改めて仕切り直すみたいなところはありましたね。その意味では、これまで見慣れてきたファンの方が期待するものを敢えて変えるわけですから、その変え具合が難しいんですよね。本当は要所を押さえて少しだけ変えればいいのですが、作る側としてはどうしてもバーンと大きく変えたくなるんですよ。

――その一方でゾロメカの復活ですとか富山敬さんのナレーションの復帰ですとか、全体にギャグ志向のお話ですとか、「イッパツマン」に比べると原点回帰的な印象もありますが。

それもありました。言葉は悪いですが、成り行きとはいえ『イッパツマン』は本当にシリアスなお話になっちゃいましたから。ただ、それが『イッパツマン』らしさになったわけなんですけど。でも『イタダキマン』で富山さんがナレーションというのは、別に原点回帰ではないです。作品が変わる度に、三悪以外の声優さんは変えて行くというのが基本みたいなところでしたから。そういうことで、今回はまたナレーションをお願いしたと言うことなんですよ。

――すると『イッパツマン』の方がフェイクだったということですか？

（笑）そうですね……富山さんも『イッパツマン』の時の方が、意外そうな顔をされていましたよ。

――原点回帰的な面で言えば、『イタダキマン』ではメカが再び人型ロボから動物型に戻っていますが、これはどういう経緯だったのですか？

人型ロボの代わりというわけでもないですが、『イタダキマン』では巨大化する二段変身というのがありましたから。ただ、ちょっとその変化が分かりづらかったのが反省点でしょうか。登場するメカに関して言いますと、『タイムボカン』の時の昆虫みたいな、デザインの拠となるものがあまりしっかりしていなかったのが、ちょっとマイナス点ですね。竜子が変身するでんでん虫メカは良かったのですけれど。今振り返ってみると、もう少し何か考えられたのではないかと思います。

でも不思議なもので、『イタダキマン』が一番好きだって言って下さるファンの方もいらっしゃるんですよ。

――当時は学園ものというのは、ひとつのトレンドでしたから、それで取っつきやすかったというのもあるのかもしれませんね。

そうかもしれません。

――『イタダキマン』で探して回るのはオシャカパズルでしたが、このアイデアというのはどの辺から来ているのでしょうか？

宝物が散らばっていて、単に集めるだけではなくて、それを一つにまとめるともっとすごいものになる、というようなところですね。

――第１話でオチャカ校長が、「このパズルは26枚かもしれないし、52枚かもしれない」と区切りのいい話数分で言っていたのが、おかしかったです。

実はこのパズルというのは作りづらかったんです。何個に分けたらいいのか？　というのがありましたから（笑）。まぁ企画を考えた当初は１年は放映するだろうと思っていたので、それでああいうセリフを言わせたわけなんです。このパズルは全部集まると輪になるんですね。

――“友達の輪”ですよね。でも最後にダサイネンが“正義と悪が手を繋いじゃ話にならないんだよ！”みたいな捨てセリフを残してゆく辺りが、タイムボカンシリーズのアイデンティティみたいなものを彷彿とさせてしまうんですが。

そこまで深くは考えてはいないんですけど（笑）。

――エンディングテロップに「協力ビックリハウス」と、当時のギャグ系投稿雑誌がクレジットされていますが。

ええ。ビックリハウスの方とお会いしまして、「協力お願いします」とご挨拶しました。でもその経緯や具体的に何を協力していただいたとかは、よく覚えていません。

――イタダキマンが登場するときの口上が、カッコいいのか難癖つけているのかよく分からない感じも愉快ですね。

実はこれまで公表したことはなかったんですけど、イタダキマンは最初はもっと口を悪くするつもりだったんですよ。『西遊記』の悟空以上の暴れん坊にしたくて、本当に「てめぇ、このヤロー！」くらい言わせようと思ってたんです。しかも、バーッとまくし立てるという。それで個性を出そうと考えていたんですけど、それはNGだったんです。でも最初の２回くらいはやったかなぁ。

――イタダキマンの声は田中真弓さんでしたから、それで押し通せば、かなりキャラが膨らんだような感じもしますね。

でも、それはあんまりにも酷いんじゃないかと言われてしまいまして（苦笑）。

――その田中真弓さんについて、当時の印象などをお聞かせいただけますか？

田中さんは主題歌も歌われてますよね。とにかくパワーある人でしたよ。確か音響を担当していたザックプロモーションのディレクターさんから、「新人ですごくパワーのある人がいるんですよ」と紹介された覚えがあります。

――二枚目も三枚目も出来ますし、当時から田中さんはベランベェ的なイメージで売っていた部分もありましたから、“口が悪い”という雰囲気にもマッチしていました（笑）。

ですね（笑）。だから悟空役である空作にはちょうど良いんじゃないかということで、お願いした訳なんですけど、まさにピッタリでしたよね。

――『イタダキマン』では、シリーズ構成が小山高生さんから酒井あきよしさんに変わりましたが、それによる変化というのはありましたか。

そうですね……小山さんの時は結構“あうんの呼吸”みたいなところで出来た部分があったんですよ。一方酒井さんは、どちらかと言えばシリアスの方が得意ですので、そういう点でお互いのスタンスやノリををつかみきれなくて、どことなく固いと言いますか、それまでよりも開放感が抑えられてしまったようにも感じます。

――なるほど、言われてみると『イタダキマン』はちょっとかしこまってしまったようなところもありますね。

そうしたかしこまった面が、逆に『イタダキマン』の個性となってくれれば良かったんですが……。やっぱり時間帯が変わったことで、それまでタイムボカンシリーズを見ていたファンの方々がチャンネルを合わせにくくなってしまったんでしょうね。今までは6時30分が習慣になっていたわけですから。

――時間帯の移動というのは、当初からかなり危惧されていたのですか。

していました。で、予想したとおり視聴率がガクンと下がってしまいました。

――当時土曜の７時台のフジテレビは春から秋にかけて割合と野球中継を入れていたので、チャンネルを合わせても『イタダキマン』をやっていないということもありました。

ファンの方も、毎週という形で放映されないとどこかリズムが狂って、見忘れてしまうんでしょうね。『サザエさん』にしてもそうですけど、長寿番組というのは毎週同じ時間に放映されることが大切なんですよね。テレビ局としてはタイムボカンシリーズは人気のある力のある番組なので、ゴールデンタイムに持っていけばもっと力を発揮できると考えてのことだったと思うんですが。

『イタダキマン』も突き詰めてゆくと、これならではの面白さがあるんですけどね。ただ不思議なもので、何か一つ歯車が狂ってしまうと何もかも狂っていってしまうんですよ。視聴率が下がったというだけで、何か今までと違うギクシャクした雰囲気になってしまったんですね。

――最終回の20話近辺になると、ギャグのテンポなども『イタダキマン』らしさみたいなものが感じられるようにはなってきていましたから、タラレバではありますが、もしもう１クールなり続いていれば、かなり違ったのではないかと思います。

ええ、作っている側としてはこれからもっと面白くするぞ！　と思っていたところでしたから、それは大きく変わったと思います。

――それでは、タイムボカンシリーズ全体の流れを振り返っての、印象をお願いできますか。

シリーズを続けていますと月日が経つのが早いんですね。一つのシリーズを立ち上げて放映が始まったかと思うと、もう次の企画を立てなくてはイケナイという感じですから。そうした中で、作品が変わるとき――例えば『ヤッターマン』から『ゼンダマン』とか

ですね――が、一番大変で難しかったですね。特に後半になると、シリーズの主役メカがどれくらい魅力的かどうかが重要になってきまして、企画段階での関所のようになっていました。いくらストーリーが面白くても、メカがダメだとスポンサーからOKが出ませんので。しかもシリーズが進むにつれて、3クール目からメカを変えて欲しいとかの要望も出てきまして、ますます大変になっていったんですよ。しまいには、アニメの監督なのに年がら年中メカのことばっかり考えているような感じになってしまいました（笑）。でもメカに関して言えば大河原邦男さんがいて下さって助かりました。こちらのアイデアや考えを伝えると大河原さんは木型まで作ってくれまして、スポンサーの方の前で披露するんですよ。それですと、変形などのギミックも一目瞭然ですからね。

――それは『イタダキマン』の頃もやられていたのですか？

やっていましたね。大河原さんは、シリーズで本当に大きな力になっていただきました。

――こうしてお話を伺っていますと、なんだか9年間全力疾走でフルマラソンしてきたような印象を受けます。

（笑）……それぞれの分野の方々が、ノッて一つにまとまっていかないと、長く続いてはいかないですよね。そういう点では意外とスタッフの方々は、みなさん楽しみながらノッて仕事をしていただけたと思います。そうしてもらえないと、ダメなんですよね。なにぶん、監督は注文を出すだけですから（笑）。

――良いアニメーションを作るためには、良きチームワークが重要なんだというのが良く判ります。

まったくその通りです。音楽やメカやキャラのデザインあるいは声優さんなど、本当に、どれ一つ欠けてもうまくならないんですよね。

――『イタダキマン』を最後に、一旦タイムボカンシリーズは幕を引くわけですが、その時のお気持ちはどのようなものがありましたか？

やはりこのタイムボカンシリーズは、完全に私の生活の一部になっていたわけですから、それが終わってしまったことは、ショックとまでは言いませんが、かなりの淋しさがありました。色々と辛い思いもしましたが、楽しかったことの方が多かったですから。それと同時に大きな仕事を一つ終えて、肩の荷が下りたという感じもありましたね。でもまた早く復活して欲しいと願っていましたし、まだまだやれるぞとも思っていました。けれど『怪盗きらめきマン』で復活するまで15年かかってしまいました。

私自身、『タイムボカン』をはじめた当初は、この路線の作品を9年間も続けさせてもらえるとは夢にも思っていませんでしたから、シリーズを振り返ると、"遊園地で長いこと遊ばせてもらった"ような満足感でいっぱいですね。

●インタビュアー・構成：ぼろり春草（スタジオ春草）

PROFILE

〔ささがわ　ひろし〕タイムボカン全シリーズの総監督。『マッハGoGoGo』『ハクション大魔王』『新造人間キャシャーン』『ポールのミラクル大作戦』など多くのタツノコ作品の総監督を務めてきた。タイムボカンシリーズのみならず、タツノコ作品を語る上で欠くことのできない演出家である。タツノコ作品以外の代表作としては『ときめきトゥナイト』『忍者ハットリくん』『おーい竜馬』などがある。現在もタツノコプロ所属。

FILMOGRAPHY

※基本的に放映当時の本編エンディングテロップの表記を参考にリストを制作しています。ただし、テロップの表記が間違えている場合には、正しい表記に統一しています。その他、テロップ上で不明な箇所は、竜の子プロ社内制作のリストから引用しております。

話数	サブタイトル	脚本	絵コンテ	演出	作画監督	原画
1	オシャカ学園危機イッパツ!!	酒井あきよし	笹川ひろし	うえだひでひと	水村十司	西城隆詞、川口弘明、永瀬睦子、村松尚雄
2	ドッキリ水着コンテスト!	筒井ともみ	笹川ひろし	新田義方	西城隆詞	藤岡正宣、中村　清、川口弘明、永瀬睦子
3	エッ!ヤンヤンに赤ちゃんが?	筒井ともみ	遠藤克己	かがわゆたか	二宮常雄	貴島優子、鈴木喜子、波戸根良昭、塚本あつし、松原徳弘
4	笑って笑ってネアカになれ	山崎晴哉	小島正幸	小島正幸	山本　哲	松下佳弘、和泉綿子
5	こんこん・らぶストーリー	筒井ともみ	うえだひでひと	津田義三	鈴木英二	本田　哲、多賀一広、高木敏夫
6	そんなことアリ?!大作戦	酒井あきよし	吉田ユキオ	新田義方	水村十司	川口弘明、尾関和彦、水田智美、中村　清
7	それを食ったらおしまいよ!	小山高男	香川　豊	かがわゆたか	鄭　雨英	李　学斌、崔　竜基
8	恋ピューター花嫁作戦	戸田博史	九十九十一	新田義方	西城隆司	川口弘明、尾関和彦、水田智美、藤岡正宣
9	見せてはダメよ!その秘密	山崎晴哉	小島正幸	小島正幸	山本　哲	松下佳弘、和泉綿子
10	あげられない!これだけは	山崎晴哉	永樹凡人	新田義方	西城隆司	丸山政次、川口弘明、永瀬睦子、中村　清
11	がんばい!ぼっちゃん先生	酒井あきよし	笹川ひろし	津田義三	二宮常雄	貴島優子、鈴木喜子、波戸根良昭、塚本あつし、松原徳弘
12	奇跡ウルサイユのバラ物語	戸田博史	永樹凡人	新田義方	西城隆司	尾関和彦、水田智美、中村　清、松下清志
13	学園ガジガジパニック!	山崎晴哉	小島正幸	小島正幸	山本　哲	松下佳弘、和泉綿子
14	一休山のイタダキクイズ!	酒井あきよし	吉田ユキオ	新田義方	西城隆司	ランダム、丸山政次、中島豊秋、小澤美也子
15	浜辺のキッスにご用心!	戸田博史	遠藤克己	かがわゆたか	鄭　雨英	スタープロ、李　学斌、崔　竜基
16	竜子ちゃんも女でありんす	筒井ともみ	永樹凡人	新田義方	西城隆司	川口弘明、水田智美、松下清志、林　和男
17	幻の天ドン山を越えて	山崎晴哉	小島正幸	小島正幸	山本　哲	松下佳弘、和泉綿子
18	きれいな町には罠がある!	安斉あゆ子	永樹凡人	新田義方	西城隆司	ランダム、丸山政次、中島豊秋
19	ブッシュマンVSターサン	石川　良	香川　豊	かがわゆたか	鈴木英二	本多　哲、鈴木英二
20	イタダキマンよどこへ行く	筒井ともみ	九十九十一	新田義方	西城隆司	川口弘明、尾関和彦、水田智美、永瀬睦子

■DVD制作スタッフ

プロデューサー:川瀬浩平（パイオニアLDC）／DVDディレクター:川綱俊治（キュー・テック）／BOX&ジャケットディレクター:伊平崇耶／パッケージコーディネーター:青木　裕（パイオニアLDC）／アートディレクション:坂井ヒロミ（CUiR　WORKS）／解説書　構成・執筆:谷澤光一（BEANKIDS）、ライター:ぼろり春草（スタジオ春草）／SPECIAL THANKS:吉田昇一（タツノコプロ）、長見敏子（タツノコプロ）

■参考資料

タイムボカン全集（ソフトバンク）／タイムボカン全集2悪の華道（ソフトバンク）／タツノコプロアニメ大全史（辰巳出版）／ぶたもおだてりゃ木にのぼる（ワニブックス）／ロマンアルバムAnimageアニメポケットデータ2000（徳間書店）／タイムボカン名曲大全（ビクター音楽産業　現:ビクターエンタテインメント）